

「発想力に富んだ安定的な農業経営を目指して」



唐田 耕佑 (35 歳) Uターン
(愛南町)

1 就農の動機・理由

実家は祖父の代から続くかんきつ農家で、農業は身近な存在だった。しばらくは民間企業等で様々な業務に従事し、他分野の知見を学んでいたが、両親が高齢になってきたので地元に戻って農業を継ぐことを決意して就農した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和4年)	現在の経営 (令和7年)	将来の経営 (令和11年)
労働力	男1人(本人) 家族2人 繁忙期に臨時雇用	男1人(本人) 家族2人 繁忙期に臨時雇用	男1人(本人) 家族2人 繁忙期に臨時雇用
経営耕地	畑 238a	畑 238a	畑 238a
経営内容	河内晩柑 195a 甘夏 43a	河内晩柑 195a 甘夏 28a レモン 15a	河内晩柑 195a 甘夏 28a レモン 15a

○主要農業機械

動力噴霧機 1台
運搬車 1台
モノレール 2台
油圧式電動リフト 1台
選果機 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県愛南町
職歴 民間企業等勤務(8年)
研修歴 J A えひめ南南宇和新規
就農研修
就農年月 令和4年5月

(2) 就農時の思い

就農当時の経営品目は、祖父の代から長年育成してきた「河内晩柑」と「甘夏」のみだったが、一時期に作業が集中することが課題だった。このことから、収穫時期の分散、さらなる高収益化を図るため、一部を新たにレモンに転換し、経営の多角化を目指す計画を立て就農した。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

J A えひめ南の南宇和新規就農研修に応募し、2年間かんきつ栽培の基礎についてしっかり学んだほか、就農後は父や共同選果グループの仲間から適宜、栽培管理について教わっている。

また、青年農業者協議会に所属しているため、同年代の仲間や指導機関からのアドバイスを参考にしている。

(2) 資金の準備

就農時から安定的な農業経営に取り組むため、農業次世代人材投資資金(就農準備資金・経営開始資金)を活用した。

また、農業機械を購入する際は、町の農林課へ活用できる補助金がないかを相談したほか、日本政策金融公庫の青年等就農資金を利用した。

(3) 農地・住宅の確保

当初、農地は祖父の農地を借り入れて就農した。その後、自身へ名義変更した。住宅に関しては、就農時は実家で生活していたため、住宅の確保に関する問題は特になかった。

(4) その他苦労したこと

前職がデスクワークばかりの業務だったため、就農3か月ほどまでは体が思うようについていかなかったが、仕事をしているうちに体が慣れて問題なく作業に取り組めるようになった。

5 農業経営の特徴

愛南町の基幹品種「河内晩柑」と「甘夏」の2品種を主体とする中晩柑類のかんきつ農業である。

就農当初はこの2品種のみだったが、一部を新たにレモンに改植し、さらなる収益性向上、リスク分散を図る。

6 これからの夢

園地に点在する大木となった防風林がかんきつに日陰を作ってしまう、着果や生育不良の要因となるため、それらを伐採し日照条件の改善を図っている。また、老木の改植等を実践することで園地の若返りにも取り組んでいる。

これらの活動を通じて作業の省力化、高収量・高品質化を図り、安定的かつ持続的な農業経営を目指している。

7 成功したキーポイント

地元に戻ってくるときはうまく農業に馴染めるか不安だったが、地域には思っ

たより同年代の意欲的な生産者が多く、愛南地区青年農業者協議会や共同選果グループの仲間を通じて栽培管理や販売に関する様々な情報を学習できるため、積極的な情報交換に取り組んでいる。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業は天候や社会情勢等、外部の環境に大きく左右される仕事だと思います。新たに農業を始める方は、ぜひ、色々な人と交流しながら情報を収集し、1つのことだけでなく様々な視点から農業経営にチャレンジしてください。

これまでの常識に囚われず、多様な考え方を取り入れ、自分に合った方法で農業に取り組むことが大切だと思います。

○指導機関からのひとこと

唐田さんは、青年農業者協議会の活動をはじめ、様々な地域活動に参加し積極的に情報収集に取り組んでいます。

今後、さらに農業経営に関する知識や技術力を高め、愛南町の中核的な生産者となることを期待しています。

執筆機関

南予地方局農業振興課地域農業育成室

愛南農業指導班

電話番号 0895-72-0149



河内晩柑の収穫作業